

平成28年3月期 ミニ ディスクロージャー誌

# くましんの現況 2016



開業・創業のご相談は…  
 熊本信用金庫

# 平成27年度(平成28年3月期)の業績につきまして

## ご挨拶

はじめに、このたびの平成28年熊本地震において被災された多くの方々、関係各位ならびにご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、平素より皆様方には格別のご愛顧・お引立てを賜り、厚く御礼を申し上げます。本年もミニディスクロージャー誌「くましの現況2016」を作成いたしました。本誌では、幣金庫の経営方針や業務・財務の内容について出来る限り分かり易く開示させて頂くこととしており、幣金庫についてのご理解の一助になれば幸いですと考えて作成致しております。なにとぞご高覧頂き、ご理解を深めて頂きますと共に、より一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当金庫は、地域社会の発展に貢献することを第一の目標に掲げ、それを実現するためには安定的な金庫経営の確保が重要である事を肝に銘じて、健全性と独自性を堅持しながら、リスク管理の強化や収益基盤の再構築、経費削減等の合理化・効率化に取り組んで、経営体質の一層の強化に取り組んでまいります。

理事長 品川 良照

## 当金庫のプロフィール

(平成28年3月末現在)

創 業	大正12年8月29日
出 資 金	1,070百万円
預 金	149,305百万円
貸 出 金	80,391百万円
会 員 数	15,479名
店 舗 数	18店舗
役 職 員 数	179名
営 業 区 域	熊本市、宇土市、八代市、山鹿市、 菊池市、玉名市、宇城市、阿蘇市、 合志市、上益城郡、下益城郡、 八代郡、菊池郡、阿蘇郡、玉名郡

(ホームページ)

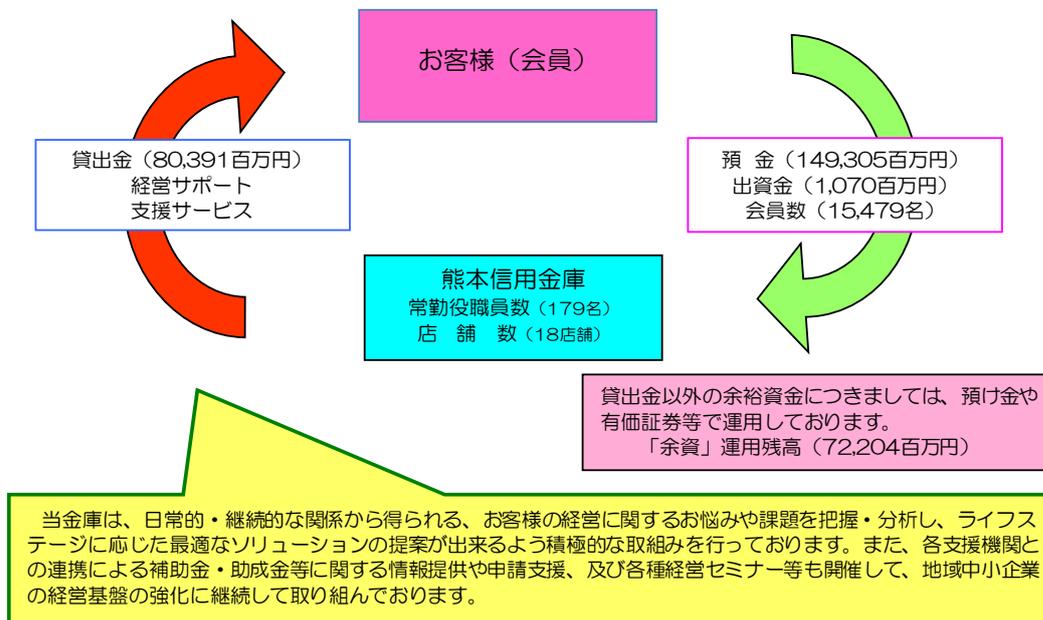
<http://www.kumamoto-shinkin.jp>

## 熊本信用金庫と地域社会

当金庫は、熊本市とその周辺地域を主な営業区域と定め、地元中小企業事業者の皆様や地域住民の皆様様に「会員」や「お取引先」となっていただき、営業を営んでおります。その営業は「互いを助け合い・互いに発展して行く」ことを基本理念としており、数多く存在する金融機関の中でも「相互扶助型金融機関」と位置付けられる所以となっております。

地元の皆様との間では強い絆やネットワークを形成しており、「地元のお客様」からお預かりした大切な資金(預金積金)は、資金を必要とされる「地元のお客様」を中心に融資するなど、「地元」の事業や生活繁栄のお手伝いを第一の目標として日々の活動を行っております。熊本信用金庫は単なる金融機能の提供に止まらず、地域社会の一員として地域経済の持続的発展に努め、文化・環境・教育といった多方面も視野に入れながら、広く地域社会の活性化に貢献すべく積極的な活動に取り組んでまいります。

(平成28年3月末現在)

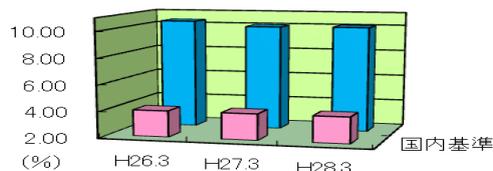


## 自己資本比率の状況

平成27年度の自己資本比率は10.04%となりました。自己資本比率の分母となるリスクアセット額は、貸出金残高が期首比2,261百万円増加した影響もあり、3,501百万円増加の65,736百万円となりました。一方、比率の分子となる自己資本額は、今期も内部留保の積み増しができ、384百万円増加の6,602百万円となりましたため、自己資本比率は前期の9.99%に比べて0.05ポイント上昇した10.04%となりました。

なお、平成27年度の自己資本比率の開示にあたっては、平成26年3月31日より適用された新規制に基づいて開示しており、認められている経過措置を採用しております。また、自己資本比率の国内基準は4.0%ですが、当金庫の比率は本年度もこれを大幅に上回っており、十分な健全性が確保されております。

自己資本比率



	H26.3	H27.3	H28.3
国内基準	4.00	4.00	4.00
当金庫	10.34	9.99	10.04

## 預金・貸出金の状況

平成28年3月期末の預金残高は149,305百万円となり、期首比4,920百万円の増加となりました。内訳は、流動性預金が3,706百万円増加し、定期性預金も1,213百万円の増加となっております。

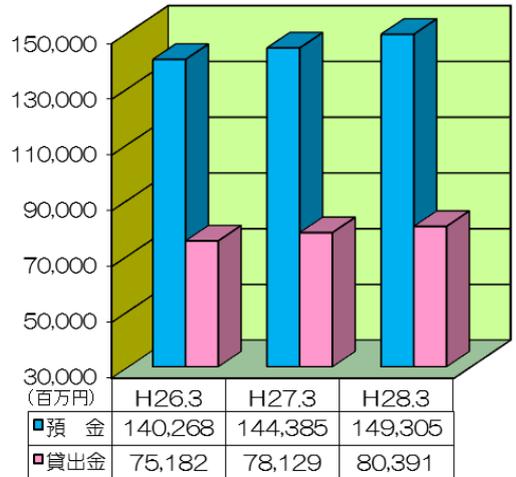
定期預金に関しましては、相続預金を対象とした「相続定期預金」や退職者向けの「退職金専用定期預金」をはじめ、年金受給者向け商品である「寿定期預金」「寿定期積金」や子育て支援商品の「多子家族応援定期預金『子宝』」等の金利上昇商品につきましても、好評を博し、地域の皆様から多くのご支持をいただいております。しかしながら28年2月に日銀のマイナス金利政策が導入され、都銀や地銀などで預金の金利引下げがおこったため、預金への関心が薄れ始め、個人預金の一部に、他の高利回り商品への流出も見受けられました。

今後も、取引軒数増加と複合取引の増強を図り、引き続き基幹商品である定期預金や小・中口定期預金の取り組みに注力しながら、預金増強に努めてまいります。

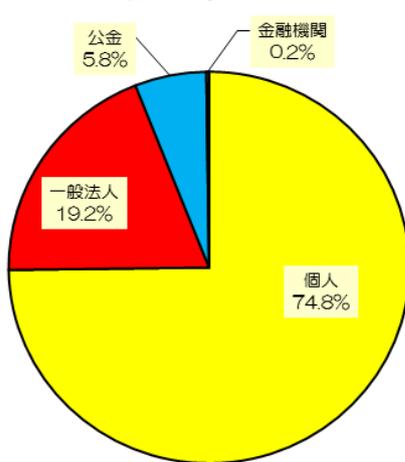
貸出金に関しましては、期末の残高が80,391百万円となり、期首比2,261百万円の増加となりました。アベノミクスによる景気回復の兆しが見えず、事業性預金の需要が伸び悩んでおり、営業店全体では、1,694百万円の増加、金融機関貸付金で1,000百万円の増加、公金で432百万円の減少でありました。また、創業資金や補助金制度がらみの保証協会付の低金利融資にも力をいれる一方で、融資利回り低下の対策として、秋口からは個人向けの消費者ローン「職域サポートローン」に特化し、5ヵ月半で1,371百万円の実行に結び付け、個人ローンに関しては年間3,313百万円実行することができました。

今後も一層フットワークを活かし、「人間力」「スピード力」「目利き力」「つなぐ力」を強化して、コンサルティング機能を充実させてまいります。地元の皆様に信頼され、最も身近で相談しやすい、安心して頼れるパートナーとなるよう精進を重ねてまいりますと共に、利便性の高い事業性資金や個人リテール資金の安定供給と取扱いの増加に努めながら、お客様方や地域の発展・活性化に繋がる営業活動を行うことで貸出金の増強に繋げてまいります。

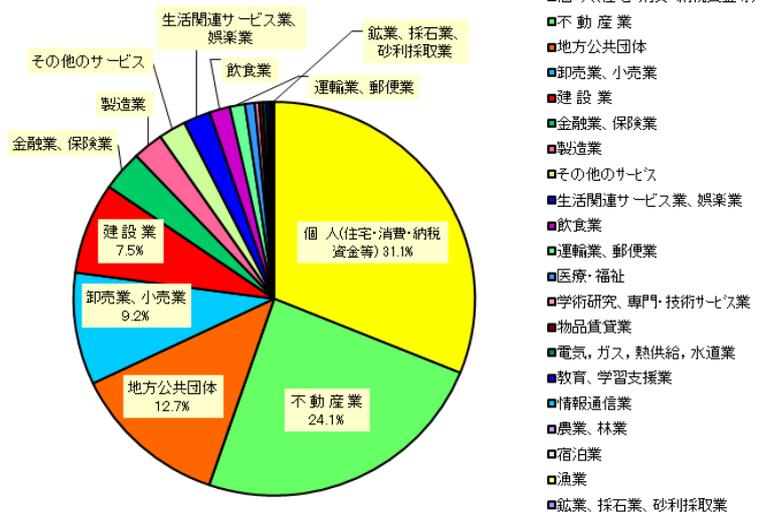
預金・貸出金 期末残高



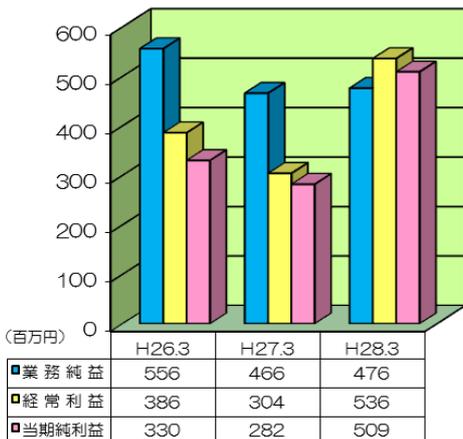
預金の内訳構成 (%)



貸出金の内訳構成 (%)



損益の状況



## 損益の状況

アベノミクスによる株高・円安への誘導がもたらした企業業績の向上やインバウンド消費等による消費の拡大により、日本経済は緩やかに回復。当金庫も融資量の増加を図ることが出来、平成27年度の貸出金残高につきましては80,391百万円(対前期比2,261百万円の増加)とすることが出来ました。また、貸出金利息収入につきましても、通常より1日多い「うるう年」による効果もあり、前年より増加することが出来ましたが、極端な金利低下に加え、利益確保のための解約を殆ど見送ったため、余資として運用している貸出金以外の利息収入が減少し、資金運用収益は2,402百万円(対前期比38百万円の減少)となりました。一方の預金につきましては、金利低下が落ち着き、預金残高増加にともない資金調達費用が対前期比で1百万円増加しましたため、資金運用収支は対前期比で39百万円の減少となっております。

経費につきましては、人件費を中心に引き続き経費削減に取り組んだ他、償却債権取立益の増加や貸倒引当金戻入益の計上によるその他経常収益の増加、前年度は計上された個別貸倒引当金繰入額や退職給付費用の計上がなかったことによるその他経常費用の減少等があり、経常利益は536百万円(対前期比231百万円の増加)となり、当期純利益は509百万円(対前期比226百万円の増加)となりました。

## 不良債権の状況

金融再生法開示債権額と保全状況

(単位：百万円、%)

	平成25年度 (平成26年3月期)	平成26年度 (平成27年3月期)	平成27年度 (平成28年3月期)
金融再生法上の不良債権 (A)=(i)+(ii)+(iii)	3,418	3,052	2,520
破産更生債権等 (i)	571	542	467
危険債権 (ii)	2,571	2,460	2,043
要管理債権 (iii)	276	49	9
正常債権 (B)	72,527	76,503	79,315
合計額 (C)=(A)+(B)	75,946	79,555	81,836
不良債権比率 (D)=(A)/(C)	4.50%	3.83%	3.07%
保全額 (E)=(iv)+(v)	2,667	2,475	2,024
貸倒引当金 (iv)	387	454	421
担保・保証等 (v)	2,279	2,020	1,602
保全率 (F)=(E)/(A)	78.03%	81.09%	80.31%
担保・保証等控除後債権に対する引当率 (G)=(iv)/((A)-(v))	34.07%	44.07%	45.91%

- 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権(i)」とは、破産、会社更生、再生手続等事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
- 「危険債権(ii)」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
- 「要管理債権(iii)」とは、「3カ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。
- 「正常債権(iv)」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権(i)」、「危険債権(ii)」、「要管理債権(iii)」以外の債権をいいます。
- 貸倒引当金(iv)は、個別貸倒引当金及び要管理債権に対して計上している一般貸倒引当金の合計額です。
- 「担保・保証等(v)」とは、「金融再生法上の不良債権(A)」のうち、預金・横金、有価証券及び不動産等の担保並びに信用保証協会等機関保証による回収が可能と見込まれる金額です。

## 店舗一覧

店番	店舗名	住所	電話
001	本店営業部 ◎	〒860-8655 熊本市中央区手取本町2番1号	096-326-2211
003	川尻支店 ○	〒861-4115 // 南区川尻4丁目6番15号	096-357-6231
005	健軍支店 ◎	〒862-0908 // 東区新生2丁目3番4号	096-367-1011
006	子飼支店 ◎	〒860-0853 // 中央区西子飼町10番5号	096-343-5233
008	南熊本支店 ○	〒860-0813 // 中央区琴平2丁目1番1号	096-372-1133
009	県庁前支店	〒862-0950 // 中央区水前寺6丁目31番24号	096-381-3000
010	新外支店 ○	〒862-0913 // 東区尾ノ上4丁目11番30号	096-367-3811
011	上熊本支店 ○	〒860-0072 // 西区花園1丁目2番2号	096-325-1231
012	秋津支店 ○	〒861-2102 // 東区沼山津3丁目3番2号	096-365-1101
013	西部支店 ◎	〒860-0059 // 西区野中2丁目14番14号	096-354-4811
014	江津支店 ○	〒862-0941 // 中央区出水5丁目11番41号	096-363-1611
015	新地支店 ○	〒861-8075 // 北区清水新地5丁目10番33号	096-339-1222
016	御幸田迎支店 ○	〒861-4172 // 南区御幸田1丁目1番7号	096-379-0006
017	長嶺支店 ◎	〒861-8039 // 東区長嶺南3丁目8番114号	096-381-3288
019	宇土支店	〒869-0431 宇土市本町4丁目14番	0964-23-5511
020	菊陽支店 ◎	〒869-1101 菊池郡菊陽町津久礼2429番1号	096-232-3330
021	合志支店 ○	〒861-1112 合志市幾久富1758-147	096-248-3335
022	飛田支店 ○	〒861-5514 熊本市北区飛田4丁目10番7号	096-344-1313

○印の自動機は土・日曜日も稼働しております。

◎印の自動機は土・日曜日、祝日も稼働しております。

平成28年熊本地震において被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、尊い生命を犠牲になられた皆様にご冥福を心よりお祈り申し上げます。

